

# 天理図書館蔵新整理インキュナブラ目録

天理図書館副館長  
三濱 靖和 Yasukazu Mihama

前回（2025年10月号）、本館所蔵洋書の代表的コレクションの1つとしてインキュナブラ（1500年以前に金属活字で印刷された本）をあげた。<sup>(1)</sup>零葉（一冊の本が切り離されて1枚（または数枚）になったもの）とはいえ、わが国にゲーテンベルクの『42行聖書』が最初に将来したのも本館である。今回は、本館がインキュナブラを所蔵してきた履歴を目録や図録でたどりつつ、2025年末現在の所蔵状況を記す。<sup>(2)</sup>

本館所蔵のインキュナブラを目録で確認しうる最初のものは、1941年刊行の『天理図書館稀書目録洋書之部』（以下、稀書目録と記す）であり、2点のラテン語『聖書』インキュナブラの記載がある。それらは、キリスト教関係書を収集する過程で所蔵したのだろう。富永牧太2代館長によると、インキュナブラは意識的に収集したわけではなく、主として戦後、様々な機会に集ったという。<sup>(3)</sup>1952年刊行の『稀書目録』（第2巻）にインキュナブラの記載は無い。1954年に入職した元館員の話では、その当時は数点のインキュナブラしかなかったが、中山正善2代真柱の海外巡教によって将来したもののが核となり、本館有数のコレクションの1つを形成することになったという。<sup>(4)</sup>事実、1951年から1963年にかけて7回の海外巡教を行った2代真柱が収集した図書の目録にはインキュナブラが10点以上含まれている。<sup>(5)</sup>

インキュナブラの所蔵は1955年以後、着実に増加する。天理図書館編『善本写真集』第5巻（1955年）に8点、『稀書目録』（第3巻）（1957年）に10点、『善本写真集』第18巻（1962年）に16点、『稀書目録』（第4巻）（1989年）には34点の記載がある。また、雪嶋宏一による1995年刊行の『本邦所在インキュナブラ目録』（Union catalogue of incunabula in Japanese libraries (IJL)、雄松堂出版、以下IJLと記す）は50コピーを記載している。そして、前回述べたように、同じく雪嶋による『本邦所在インキュナブラ目録第2版』（Incunabula in Japanese libraries (IJL2)、2004年、雄松堂出版、以下IJL2と記す）には56コピーの記載がある。

この数は、3万件以上のインキュナブラの書誌情報とそれらの世界中の所蔵情報を載せたBritish Libraryのインキュナブラのデータベース Incunabula short title catalogue（以下、ISTCと記す）に掲載の点数と一致する。この点について少し述べる。わが国のインキュナブラの所蔵状況についてISTCの基礎になっているのは、雪嶋の調査である。IJLの序論によると、1952年の関西大学図書館の天野敬太郎、1964年から66年の本館の富永の調査に続き、第3回目のインキュナブラ全国所在調査を早稲田大学図書館（当時）の雪嶋

が1988年11月から1994年7月末まで行った。過去2回の調査がアンケート方式であったのに対して、雪嶋は、できる限り直接現物にあたって個々のコピーを書誌学的に詳細に調査するということを原則にした。その調査データをISTCに報告した後、ISTCからわが国で利用できる書誌データの提供を受け、その書誌に準拠してIJLが編纂された。IJLは、いわばISTCとの国際協力により完成したのであり、日本国内の図書館・研究所および個人等44カ所が所蔵する297版348コピーが世界に知られることとなった。さらに雪嶋は、1994年9月から2003年10月31日にかけて再調査を行い、IJL(初版)に86版118コピーと18の所蔵機関を新たに加え、合計62カ所が所蔵の383版466コピーを掲載するIJL2を刊行した。

IJL2発行から20年以上が経った2025年現在、本館が実際に所蔵するインキュナブラはISTCに掲載の点数よりも増加している。本稿では、それらISTCにはまだ反映していない本館所蔵インキュナブラの簡略な書誌を掲載する。書誌の不十分な点や、もし誤謬があれば、今後の調査・研究によって完全な目録にできれば幸いである。

なお、本目録の作成には、本館洋書貴重書整理担当者に協力を得た。ここに記して謝意を表する。

## 【凡例】

- 掲載順序は著者名のアルファベット順とした。ただし、『聖書』(Bible)については、著者名Aの次に刊行年順に配列した。
- 書誌記述の各項目は、通し番号に続けて、次の順に記載した：著者名；タイトル（斜体）；印刷地：印刷者、印刷年月日、判型Folio(二つ折り版)、Quarto(四つ折り版)；本文言語(Lang.)；本館請求記号(Call No.)；目録典拠(Ref.)
- 目録典拠にはISTCを使用し、著者名、タイトル等の表記はそれに準拠した。

## 1. Anselmus, S

*Opera. Ed: Petrus Danhauser*

Nuremberg : Caspar Hochfeder, 27 Mar. 1491. Folio

Lang: Latin

Call No.: 132//イ16

Ref.: ISTC ia00759000

## 2. Aurbach, Johannes

*Summa de sacramentis*